

製品安全データシート

作成 平成16年10月20日
改定 平成17年 3月22日

1. 製品名及び会社情報

製品名 IPクリーン LX, HX
会社名 出光興産株式会社
住所 〒100-8321 東京都千代田区丸の内3丁目1番1号
担当部門 化学総括部 化学品質保証室
TEL 03(3213)3613 FAX 03(5221)9582
緊急連絡先 機能化学品部 機能化学品三課
TEL 03(3213)3621 FAX 03(5221)9583
整理番号 10580-1

2. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名 : 合成イソパラフィン系炭化水素
成分及び含有量 : イソパラフィンとして 100 wt%

LX	HX
C8~C13のイソパラフィン 100 %	C12~C16のイソパラフィン 100 %

	LX	HX
官報公示整理番号 (化審法)	(2)-9, (2)-10	(2)-10
CAS No	111-65-9 68551-17-7 (AlkanesC10-13, iso)	68551-17-7 (AlkanesC10-13, iso) 68551-20-2 (AlkanesC13-16, iso)

3. 危険有害性の要約

有害性 全グレード : 継続的又は繰り返しの皮膚等への接触で軽度の刺激性がある。
物理的・化学的危険性
LX : 引火性液体（消防法：第4類第2石油類）、空気との爆発性混合物を形成しやすい。
HX : 消防法：第4類第3石油類
環境影響 知見なし

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所へ移動する。
: 不快感のある場合は、直ちに医師の手当てを受ける。
目に入った場合 : 清浄な水で約15分間洗眼し、痛みが残る場合には医師の診断を受ける。
: 洗眼の際、眼瞼を指でよく開いて眼球、眼瞼の隅々まで水でよく行きわたるように洗う。
皮膚に付着した場合 : 製品に触れた部分を水及び石鹸で十分に洗い流す。
: 外観に変化があるか、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断

を受けるとかえって危険が増す。無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受ける。水で良く口の中を洗ってもよい。

5. 火災時の措置

消火剤：二酸化炭素、泡、ドライケミカル
 消火方法：初期火災の場合、粉末、炭酸ガスなどを用いる。
 ：大規模火災の場合には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
 ：棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
 ：周辺火災の場合は、周囲の設備などに散水し冷却する。

消火にあたる者の保護
 ：消火作業は風上から行い、特に密閉された場所で消火の作業に従事する者は、必ず自給式呼吸具を着用する。

6. 漏出時の措置

人への注意事項

付近の着火源となるものは速やかに取り除く。作業の際、保護具を着用する。
 風下で作業をしない。

環境への注意事項

漏出物が河川等へ流出しないよう、注意する。

除去方法

- (1)少量の場合は、乾燥砂又はおがくず等に吸収させて、化学物質専用の場所で焼却又は廃棄処理する。
- (2)多量の場合は、土砂等で囲み、液の表面を泡で覆い、できるだけ空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：火気、静電気、衝撃火花など着火源の生じないように注意する。
 ：吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、換気の良い場所で作業をする。
 ：漏洩を防止する。

保管：冷暗所に貯蔵。貯蔵タンクは全てアースし、スパークしない用具、装置を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度：日本産業衛生学会勧告値(2002)：設定されていない
 ACGIHへ勧告値(2002)：設定されていない

設備対策：取扱いについては、できるだけ密閉された設備、機器又は局所排気装置を使用する。
 ：取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具：呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

項目	単位	L X	H X
----	----	-----	-----

外観等	—	無色透明の液体、僅かな炭化水素臭	
密度15℃	g/cm ³	0.762	0.789
蒸留範囲	℃	166 ~ 202	213 ~ 262
流動点	℃	-70以下	-70以下
蒸気密度	空気=1	1.0以上	
溶解度	—	水に対し殆ど不溶	
引火点	℃	49	86
発火点	℃	368-383	324-361
爆発範囲*	容積%	0.6 - 6.2	0.5 - 4.1

*：類似物質からの推定値

10. 安定性及び反応性

熱、光に対し安定。着火物、強酸化剤を避ける。

11. 有害性情報

急性毒性 : マウス 経口 LD50 20 g/kg 以上

局所効果

刺激性 : LXでは、継続的又は繰り返しの接触で軽度の刺激性を示す*。

*：類似物質からの推定値

感作性 : 知見なし

亜急性毒性 : 知見なし

慢性毒性 : 知見なし

生殖毒性 : 知見なし

変異原性 : 知見なし

発ガン性 : 本製品の構成成分は、いずれもIARC, NTP, EUの発ガン性物質リストには記載されていない。

12. 環境影響

知見なし

13. 廃棄上の注意

(1) 廃棄する場合は、焼却によって行う。その際、焼却炉の火室へ噴霧し焼却してもよい。

(2) 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

(3) 河川や下水道への流入、地下への浸透がないよう管理する。

14. 輸送上の注意

国連分類 LX : クラス3.3 (高引火点引火性液体)

HX : 対象外

国連番号 L X : 1 9 9 3
H X : 対象外

- (1) 運搬は消防法の他に船舶安全法、その他関係法規の定めるところによる。
- (2) 荷役作業場は火気厳禁とし、消火器を配置すると共に、作業中の標識をする。
- (3) 車輛には異常時のための応急処置に必要な消火器、保護具を備える。

1 5. 適用法令

消防法	L X	: 危険物 第4類第2石油類
	H X	: 危険物 第4類第3石油類
船舶安全法	L X	: 高引火点引火性液体 (クラス3, 3)
	H X	: 該当しない
労働安全衛生法	L X	: 通知対象物質に該当しない
	H X	: 通知対象物質に該当しない
P R T R法		: 該当しない

1 6. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており以上の情報は新しい知見により改訂されることがあります。

また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

以上は情報提供であって、保証するものではありません。